

● 2017年（平成29年）4～6月

1 治安・軍事情勢

(1) ヨルダン・イラク国境再開の可能性

ヨルダン・イラク両国の国境は、これまで封鎖されていたところ、イラク政府が「警備会社」に対して、バグダードと国境を結ぶ幹線道路の警備を正式に依頼したことから、4か月以内に再開する見通しとなった。（4月2日付ヨルダン・タイムズ紙）

(2) Eager Lion 2017 の実施

5月7日～18日の間、24カ国との多国間共同演習「Eager Lion 2017」が実施された。本演習の目的は、参加国軍との協力関係を促進するとともに、共同作戦環境下での戦略的な計画立案能力を向上させることにある。また、非伝統的脅威に対する国家の危機管理能力を向上させ、即応体制を最大限に高めることも目的としている。同演習は2011年から毎年実施されており、今年で7回目。今年度の演習は、対テロ作戦とその戦闘要領に焦点を当てている（4月15日付ヨルダン国軍公式ウェブサイト）。

(3) 軍事情勢

(ア) ドローンの撃墜

(A) ヨルダン軍の声明によると、5月10日、ヨルダン空軍のF-16戦闘機が、シリア国境近傍で国籍不明のドローンを撃墜。空軍は、分析のためドローンの残骸をマフラク県で収集。ヨルダン軍は2014年にも、マフラク県においてドローンを撃墜（ザータリ・キャンプ近傍を飛行していたドローンを地对空ミサイルで撃墜）していた。（5月11日付ヨルダン・タイムズ紙他）

(B) 6月30日、ヨルダン空軍の無人機（小型ドローン）が技術的な故障により、マフラク市南東部に墜落した（6月30日付ヨルダン軍公式HP）。

(イ) 国境警備隊による国境侵入阻止

6月11日、ヨルダン国境警備隊は、シリア側国境から侵入しようとした9台の車両を阻止した。その後、再度、ピックアップ車1台及び2台のバイクが越境を試みたため、5人を殺害するとともに同車両を破壊した（6月12日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

(ウ) 砲弾の着弾

6月20日、シリア領域から7つの砲弾が飛来し、ヨルダン北部のラムサー市及び同市北側近郊に着弾した（6月21日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

2 一般犯罪・凶悪犯罪等の動向

(1) 薬物密輸の摘発（4月21日～27日付ヨルダン・タイムズ紙他）

#### (ア) 税関による薬物密輸入の摘発

税関当局は、アジュルン郵便局において、合成大麻（ジョーカー）2キログラムの密輸を阻止したと発表した。職員が水たばこの葉と表記された荷物を不審と認め検査したところ、上記薬物を発見したもの。イルビッド郵便局においても、薬物が押収されている。

(イ) 薬物取引の疑いで被疑者4人を逮捕警察当局が薬物の密輸出計画の通報に基づいて捜査した結果、被疑者が運転する車両内から麻薬5万錠を押収し、被疑者を逮捕するとともに、関係する被疑者2名を逮捕した。また、別の事件では、国外に向かう車両内から浄水器フィルター内に隠匿された麻薬を押収し、被疑者を逮捕した。

#### (2) 薬物密輸容疑者の逮捕

(ア) 6月4日、ヨルダン国境警備隊は、薬物を密輸しようとした容疑者4人を逮捕し、112シートのハシーシュ及び1万3千錠のカプタゴンを押収した（6月6日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

(イ) 6月29日、ヨルダン警察薬物対策部はヨルダン国軍とともに北東部の国境において、麻薬の密輸を阻止し、麻薬2万錠を押収した。その際、被疑者1人が逮捕されたが、複数の被疑者が逃走している（6月30日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

#### (3) 薬物の押収

(ア) 6月7日、ヨルダン警察薬物対策部は薬物密輸情報に基づく捜査で、国境付近で本年最大の押収量（900万錠）の麻薬の密輸入を摘発した（6月8日付（ヨルダン・タイムズ紙他）。

#### (イ) 11万錠の麻薬の押収

6月11日、ヨルダン警察薬物対策部はカラク県カトラーネにおいて、11万錠の麻薬を押収した。薬物を搬送する車両があるとの情報に基づいて捜査を実施し、同車両を発見したもの。車両運転手は薬物の入ったバッグを投げ捨て、車両をその場に置き逃走した（6月13日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

#### (4) 銃器使用強盗事件の発生

6月6日、警察当局はアンマン市とマダバで発生したガソリンスタンドに対する強盗事件の被疑者2人の行方を追跡中と発表した。被疑者のうち1人はライフルを、もう一方は拳銃を所持。被疑者らは、いずれにおいても、従業員を縛りあげ合計410JDを強奪した（6月7日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

#### (5) 「家族の名誉のため」19歳女性を拳銃で殺害

6月6日、Jordan Valley 通りを夫と歩いていた19歳の女性が、自身のいところから「家族の名誉のため」に拳銃で殺害された。容疑者（26歳、男）は、拳銃で女性の頭を3発、胸を2発、背中を1発撃っており、殺害後、自ら近く

の警察署に出頭、「家族の名誉が動機である」と話した。被害女性は妊娠5か月であり、胎児も死亡した（6月7日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

#### （6）部族間の抗争事案及び収束

（ア）5月7日、イルビッド県で発生した二つの部族間の衝突により、1人が死亡、4人が負傷、12人が逮捕された。警察当局によると、近くに住む二つの家族間の些細なトラブルが、抗争に発展。4人が負傷し病院に運ばれたが、被疑者らが同病院を襲撃、負傷した親戚を見舞っていた男性が銃弾を受け死亡。警察は、銃撃犯を特定し、使用銃器を押収。同日夜、憲兵隊等が出動し、警戒にあたった。（ヨルダン・タイムズ紙他）

（イ）イルビッド県 SARIH 地区において、約4週間続き2人が殺害された二つの部族間の争いは、6月8日に一連の事案の解決を法の手続きに委ねるとした同意がなされた。本件は、一旦は、治安当局から事態の沈静化がなされた旨の発表があったものの、6月4日に、関係者の殺害事件が発生していた。今回の協議においては、首相経験者が事態を収束させるために出席した（6月9日付ヨルダン・タイムズ紙他）。

#### （7）水道局職員襲撃事案

政府関係者によると、5月13日、イルビッド県において、違法な井戸の掘削作業を巡る銃器等による襲撃事件が発生。掘削作業を中止させるために警察や憲兵隊等とともに掘削現場に赴いていた水道局職員が襲撃を受けた。襲撃者らは職員の車両を破損、職員を負傷させ、その場から逃走した。

#### （8）2016年の犯罪取扱い件数

警察関係者はラジオ局との5月14日のインタビューにおいて、2016年の犯罪取扱い件数は14,289件、前年比（16,065件）で11パーセント減少した旨述べた。また、2016年は約90パーセントの事件を解決、昨年の86パーセントよりも上昇したとしている。犯罪別の取扱い件数は、重要窃盗罪が7,164件で昨年比1パーセント減、殺人罪が131件（うち、129件を解決）で昨年比13.2パーセント減。しかし、サイバー犯罪は3,654件を認知、昨年比で58パーセント増加。

#### （9）祝砲に関する通報

警察当局は、5月15日、SNSアプリケーション「WhatsApp」を通じて結婚式等における祝砲に関する情報の提供を求めることとした旨発表した。当局は、このような祝砲が人的殺傷や物的損害の原因となるため、防止対策に取り組んできた。当局によれば、市民の協力により、祝砲行為が減少、違反者に関する情報提供面でも有効としつつ、同アプリは、他の事案の通報等にも使用が可能で、通報者の匿名性は確保されるとしている。（ヨルダン・タイムズ紙他）

### 3 テロ・爆弾事案関連

#### (1) I S I Lによるテロ声明

4月4日、I S I Lは、そのシンパに対してヨルダンに対するテロ実行を指示するビデオを放映した。同ビデオでは、昨2016年3月のイルビッドのテロ未遂事案や同12月のカラクのテロ事件に言及している。(ヨルダン・タイムズ紙他)

#### (2) テロリストに対する懲役刑の宣告

4月12日、国家治安裁判所は、マルカ空港等におけるテロ画策と実行のために資金を得ていた3名に対し、懲役15年の刑を言い渡した。(ヨルダン・タイムズ紙他)

#### (3) ルクバーン(シリア・ヨルダン国境)における爆発

5月15日夜、ヨルダンが支援する地元武装勢力のチェックポイントへの自動車爆弾攻撃。同日深夜I S I Lが犯行声明を投稿。武装勢力兵士及び一般人の合計数十人が死傷。負傷者はヨルダン内の病院で治療中の由。(ガド紙電子版他)

#### (4) Tanf(シリア・イラク国境)における爆発

5月15日夜、Tanf地区のシリア反政府勢力の検問所(チェックポイント)における自動車爆弾テロ。犯行主体は不明。シリア反政府勢力の兵士複数人が死傷。(ガド紙電子版他)

#### (5) テロリストによる襲撃

6月3日、ヨルダン国境警備隊は、オートバイに乗った3人組のテロリストがルクバーンに近い国境警備隊の施設を襲撃しようとしたため、交戦し3人全員を殺害した(6月4日付ヨルダン・タイムズ紙他)。

### 4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

### 5 日本企業の安全に関わる諸問題

なし。

(了)